

北陸地方におけるチョウカイクロマメゲンゴロウの初記録

渡部晃平¹⁾・森 正人²⁾

¹⁾ 〒 920-2113 白山市八幡町戌3番地 石川県ふれあい昆虫館 (koutarouhigasi@yahoo.co.jp)

²⁾ 〒 561-0883 豊中市岡町南 1-1-10 環境科学大阪株式会社 (mori@kankyok.co.jp)

A New Distributional Record of *Platambus ikedai* (Nilsson, 1997) (Coleoptera, Dytiscidae) from Hokuriku Region, Japan

Kohei Watanabe and Masato Mori

チョウカイクロマメゲンゴロウ *Platambus ikedai* (Nilsson, 1997) はモンキマメゲンゴロウ属の *optatus* 種群に属する小型のゲンゴロウである(森・北山, 2002). 本種は山形県の鳥海山を基準産地として記載された種であり(Nilsson, 1997), その後、北海道や東北地方(岩手県, 秋田県, 福島県)より発見された(高橋・茅橋, 2005; Okada, 2010; 平澤ほか, 2013). 筆者らはこれらの分布域から大きく離れた石川県で本種を確認したため、北陸地方初記録として報告する.

採集データおよび形態的特徴

チョウカイクロマメゲンゴロウ *Platambus ikedai* (Nilsson, 1997)

1 ♀, 石川県白山市瀬波 大笠池 標高 1,725 m, 13. X. 2016, 渡部採集・保管(図1).

渡部ほか(2018)で同定を保留していた個体と同じものである。採集個体は♀であったため、背面の網状印刻、跗節の長さ、後胸腹板翼部の形状などを基準産地および他産地の標本と比較することにより、森が同定した。本種の背面には変異が表れることが知られており、山形県産や福島県産のように♀背面には光沢があるが♀は光沢を欠くもの(森・北山, 2002; 平澤ほか, 2013), 岩手県産のように♀背面にも光沢があるものが確認されている(高橋・茅橋, 2005). 今回確認した石川県産の♀は背面の光沢を欠くタイプであったが、サンプル数が少ないため、全ての♀が同様の形質を有するかについては不明である。



図1. 石川県産チョウカイクロマメゲンゴロウ♀.

生息環境および成虫の出現時期

本種が確認されたのは大笠山山頂より西側に形成された池(大笠池)である。この池では、水中には植生が見られず、大量の落ち葉が堆積していた(図2)。全体的に日当たりが良いものの、一部の水際は陸上部に生い茂ったササ類によりわずかに影になっていた。本種は、流入口付近の小石や落ち葉が堆積した浅瀬の底から1頭が確認されたのみで、個体数は極めて少なかった。個体数が少なかったのは本種だけではなくコウチュウ目全般に共通しており、同池から採集されたチャイロマメゲンゴロウ *Agabus browni* Kamiya, 1934 とハイイロゲンゴロウ *Eretes griseus* (Fabricius, 1781) も1頭しか確認されなかった(渡部ほか, 2018)。唯一個体数が多かったのはマメゲンゴロウ *A. japonicas* Sharp, 1873 で、極めて多数の個体を確認された。

採集地点の標高が明記されている他県の事例では、本種は標高 500 m 以上の比較的標高の高い地域で確認されている(表1)。大笠池の標高は 1,725 m と他県に比べて高いものの、高標高地で採集されたという点では他県の採集事例と一致する。一方、生息環境に注目すると、他県では流れのある水路



図2. 石川県の生息環境(大笠池).

や河川敷の水たまりなどから得られている(表1)のに対し、今回の記録は池から採集されたものである。採集時には、*optatus* 種群の種が採れたことに気づき、追加を狙って念入りに採集したにも関わらず1頭しか得られなかった。個体数が極めて少なかったことや他県の事例とは異なる池という環境で採集されたことから、本来の生息地ではない環境から採集された可能性がある。大笠池の上流側には、大笠池へとそそぐ小さな細流がみられた。調査時にはほぼ枯れ沢のような状況であったが、一部のエリアには水が溜まっていたため、本来はこの細流に生息しているのかもしれない。

成虫が確認された時期について過去の記録を整理すると(表1)、1, 3, 6, 12月の採集記録がないものの、この中には2月末および5月末の記録が含まれているので3, 6月には成虫が見られる可能性が高い。また、三田村ほか(2017)では採集記録を伴っていないものの、成虫が確認できる時期に12月を含めていることから、ほぼ一年を通して成虫が確認されるものと推測される。

国内分布

既知記録を含めた本種の分布状況を図3に整理した。本種は国内にのみ分布する日本固有種であり、北海道(Okada, 2010)、秋田県(高橋・茅橋, 2005)、山形県(池田, 1994; Nilsson, 1997; 森・北山,

2002; 沼田, 2008)、岩手県(高橋・茅橋, 2005; 佐野・吉崎, 2015)、福島県(平澤ほか, 2013; 吉井ほか, 2015)から記録されている。今回の記録は富山県と石川県との県境付近の高標高地から発見されたもので、本種の南限および西限記録となる。石川県と既知産地との間に位置する新潟県、富山県、長野県などの高標高地においても本種が分布する可能性が出てきたことから、今後は詳細



図3. チョウカイクロマメゲンゴロウの分布図。★、本記録；●、既知記録。

表1. 国内におけるチョウカイクロマメゲンゴロウの生息状況。池田(1994)、Nilsson(1997)および森・北山(2002)の記録は同じ標本に基づいている。

地名	採集年月日	生息環境	標高	文献
北海道上ノ国町膳棚	2007年4月28日	—	—	Okada (2010)
同上	2009年9月12日	—	—	Okada (2010)
北海道上ノ国町湯ノ岱	2007年10月21日	—	—	Okada (2010)
北海道乙部町姫川	2008年4月29日	—	—	Okada (2010)
北海道鹿部町丸沼	2008年7月13日	—	—	Okada (2010)
北海道鹿部町大沼	2009年5月31日	—	—	Okada (2010)
同上	2009年9月4日	—	—	Okada (2010)
岩手県盛岡市川後	2003年10月13日	河川敷の浅い水たまり	—	高橋・茅橋(2005)
岩手県遠野市荒川高原	2003年11月4日	湿地のごく浅い水たまり	—	高橋・茅橋(2005)
岩手県岩手郡松尾村松尾鉾山跡地	2003年10月4日	流れの速い水路	—	高橋・茅橋(2005)
岩手県宮古市江繋	2015年9月2日	川の支流	約 500 m	佐野・吉崎(2015)
秋田県仙北郡田沢湖町戸瀬	2003年9月6日	—	—	高橋・茅橋(2005)
秋田県由利本荘市鳥海町	2008年5月3日	冷水が流れ込む道路脇の小さな水溜り	—	沼田(2008)
山形県飽海郡八幡町奥山林道	1993年7月24日	林道わきのコンクリート側溝	900 m	池田(1994)
同上	1993年10月3日	同上	同上	池田(1994)
山形県飽海郡八幡町鳥海山	1993年7月24日	—	800 m	Nilsson(1996)
山形県鳥海山	1993年10月3日	染み出し水	800 m	森・北山(2002)
福島県東白川郡鮫川村赤坂東野	2012年11月24日	棚田最上部の沢からの流れ込み	700 m	平澤ほか(2013)
同上	2013年2月28日	同上	同上	平澤ほか(2013)
福島県南会津町只見町蒲生	2013年7月20日	湿地を流れる清流	—	吉井ほか(2015)
同上	2013年8月11日	同上	—	吉井ほか(2015)

な調査を行っていく必要がある。

一方、大笠池で本種が発見されたことを鑑みると、白山の高標高地にも分布する可能性が考えられる。筆者の一人渡部は石川県版レッドデータブックの改訂のため、環境省から白山国立公園の特別保護地区内の採集許可（環中地国許第 1602151 号）を取得した上で調査を実施した。本種の生息環境を多く見てきたわけではないが、文献上に報告されている本種の生息環境に類似する緩やかな流水環境が南竜周辺に、生息の可能性が疑われる池塘が登山道各所に見られた。このような環境を念入りに調査したものの、発見されたのはマメゲンゴロウのみであった。大笠池の事例のように個体数が極めて少ないために発見できなかったのか、実際には分布していない地域であったのか、これらの結論は調査例数が少ないために判断できず、さらなる調査が望まれる。

謝辞

石川県ふれあい昆虫館の福富宏和氏と株式会社沖繩環境地域コンサルタントの加藤雅也氏には過酷な採集にご同行いただいた。アクアマリンふくしまの平澤桂氏には文献をご恵与いただいた。石川県白山自然保護センターの平松新一氏には白山国立公園内の採集許可取得にご協力いただいた。これらの方々に対し厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 平澤 桂・吉井重幸・三田村敏正, 2013. 福島県初記録のゲンゴロウ科 2 種. ふくしまの虫, (31): 1-3.
- 池田都志也, 1994. 山形県鳥海山におけるクロマメゲンゴロウ種群 3 種の採集記録. 月刊むし, (279): 38.
- 三田村敏正・平澤 桂・吉井重幸, 2017. 水生昆虫 1 ゲンゴロウ・ガムシ・ミズスマシハンドブック. 176 pp. 文一総合出版.
- 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版図説日本のゲンゴロウ. 231 pp. 文一総合出版.
- Nilsson, A. N., 1997. A redefinition and revision of the *Agabus optatus*-group (Coleoptera, Dytiscidae); an example of Pacific intercontinental disjunction. Entomologica Basiliensia, 19: 621-651.
- 沼田 仁, 2008. 秋田県でエゾゲンゴロウモドキ♀型の♀を採集. 月刊むし, (454): 34.
- Okada, R., 2010. New records of two species of *Platambus optatus* species-group (Coleoptera, Dytiscidae) from Hokkaido, Japan. Elytra, Tokyo, 38: 27-28.
- 佐野真吾・吉崎真司, 2015. 岩手県におけるチョウカイクロマメゲンゴロウの記録. さやばねニューシリーズ, (20): 42.
- 高橋 誠・茅橋輝昭, 2005. チョウカイクロマメゲンゴロウ岩手県に分布. 月刊むし, (412): 49.
- 渡部晃平・福富宏和・加藤雅也, 2018. 大笠山の水生昆虫. とっくりばち, (86): 34-35.
- 吉井重幸・平澤 桂・三田村敏正, 2015. 福島県産ゲンゴロウ目録 50 種. ふくしまの虫, (33): 20-29.

(2019年2月10日受領, 2019年5月1日受理)

【短報】エンマムシ科数種の分布記録について

第二著者の的場が採集したエンマムシ科甲虫を精査したところ、以下の県・島からの未記録種と、記録の少ない種が見出されたので報告する。

ナラツブエンマムシ *Anapleus nakanei* M. Ôhara, 1994
1 ex., 高知県梶ヶ森, 16. VI. 2018.
高知県初記録。

クロチビヒラタエンマムシ *Platylomalus persimilis*
(Lewis, 1888)
1 ♂, 鹿児島県沖永良部島和泊町和, 20. IV. 2017.
鹿児島県沖永良部島初記録。

マルマメエンマムシ *Gnathoncus rotundatus* (Kugelann,
1792)
1 ex., 青森県三沢市谷地頭, 7. VI. 2007.
記録の少ない種で、青森県からは齋藤 (1992 as *G. nanus*, 1994), Ôhara (1999) の記録がある。

引用文献

- Ôhara, M., 1999. A revision of the superfamily Histeroidea from Japan (Coleoptera). Supplementum 1. Insecta Matsumurana, (n. ser.), (55): 75-132.
- 齊藤仁志, 1992. 青森県で採集されたエンマムシ類. *Celastrina*, (27): 4-56.
- 齊藤仁志, 1994. 青森県で採集されたエンマムシ類 (III). *Celastrina*, (29): 21-32.

(大原昌宏 060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目
北海道大学総合博物館)
(的場 績 643-0004 有田郡湯浅町湯浅 1410-26)